

---



---

 その他
 

---



---

順天堂大学保健看護学部 順天堂保健看護研究12  
P.60-69 (2024)

## 2023 年度保健看護学部海外研修報告 Pasadena 短期英語留学

### Report on Pasadena English short-term study abroad

横山悦子* YOKOYAMA Etsuko	栗原明美* KURIHARA Akemi	宮崎賀子* MIYAZAKI Yoshiko	山下巖* YAMASHITA Iwao
【学生執筆】			
磯部七海* ISOBE Nanami	磯和みゆき* ISOWA Miyuki	江口陽南* EGUCHI Hina	岡村怜南* OKAMURA Reina
加藤千鶴* KATO Chizuru	河原井音羽* KAWARAI Otoha	工藤凜* KUDO Rin	小林華歩* KOBAYASHI Kaho
竹村楓香* TAKEMURA Fuka	田名瀬友恵* TANASE Tomoe	中尾絵馬* NAKAO Ema	宮崎史織* MIYAZAKI Shiori

#### 要旨

順天堂大学保健看護学部、国際交流委員会は、今年度初めて英語を公用語としている国、アメリカ合衆国での語学研修「Pasadena 短期英語留学」を実施した。12名限定で参加者を募り、2年生12名が選抜された。期間は、2023年8月15日（火）から8月30日（水）の16日間で、実践的に英語を学ぶことを目的とし、午前中に英語の授業を受講し、午後からはパサディナ・シティ・カレッジ（Pasadena City College）（2023年9月に本学部との学部間MOU締結）の学生らと一緒に活動する時間や、パサディナ市・ロサンゼルス市の名所旧跡や日系アメリカ人の高齢者施設、マンザナー国立歴史地区（日系アメリカ人の強制収容所跡）を訪問した。英語学習だけでなく、多文化や多様性についても考える貴重な文化的学習体験の機会となった。

索引用語：語学研修、ロサンゼルス郡、日系アメリカ人、多文化社会

Key words：Language Training, Los Angeles County, Japanese American,  
Multicultural Society

#### 1. はじめに

順天堂大学保健看護学部では毎年3月にフィンランド・スウェーデンを中心とした北欧への海外研修を実施していたが、2020年の新型コロナウイルス感染の

アウトブレイクにより海外研修が中止となった。以降、新型コロナウイルス感染症対策として、2021年からコロナワクチン接種が順次進められ、海外渡航が少しずつ再開されつつある中、昨年（2022年）8月にはウズベキスタン共和国での海外研修を実現した。しかし、2022年2月から始まったウクライナ侵攻の影響により、2023年3月に予定していた近隣国であるフィンランドへの研修は見送られた。国際交流委員会では、

\* 順天堂大学保健看護学部

\* *Juntendo University Faculty of Health Science and Nursing*

影響の考えられる地域を避け、英語を公用語としている国での海外研修を検討していたところ、アメリカ合衆国での海外研修が候補に挙がり、カリフォルニア州パサディナ地域にて、2023年8月に「短期英語留学 Pasadena」を実施した。

本稿では、本学部で今年度初めて実施したカリフォルニア州パサディナでの16日間の短期英語留学の実施内容および成果について報告する。

## II. Pasadena 短期英語留学の概要

### 1. プログラム計画について

本プログラムでカリフォルニア州パサディナ地域を渡航先としたのは、本学部が位置する三島市がパサディナ市と姉妹都市の関係であり、両市の青少年が毎年交互に訪問し合う交流プログラムの企画を長年手掛けている Bryan Takeda 氏（以下、Bryan 氏）に特別に企画を依頼できたからである。Bryan 氏は、30年以上にわたりアメリカ合衆国の日系コミュニティで活動され、日米の若年層の交流、日米の友好親善の促進等に貢献された方で、令和3年秋の叙勲受章者として、『旭日双光章』を受賞されている。国際交流委員会から Bryan 氏に研修の趣旨を説明し、趣旨に沿ったプログラムとなるよう検討を重ね、2023年8月15日（火）から8月30日（水）の16日間のプログラムと渡航する前後の事前研修および帰国後の成果報告会を含めて計画を作成した。

### 2. 参加者

アメリカ合衆国でのプログラムの企画は、本学部では初めての試みであること、パサディナでの移動の条件などから、参加人数を12名に限定して募集したところ、多数の応募者があった。本プログラムが英語留学であることを鑑み、国際交流委員会において TOEFL の点数が良好で、普段の英語学習や Zoom によるオンライン国際交流に積極的に取り組んできた学

生を選抜した。

### 3. 事前研修

渡航前の学習として、短期英語留学の目的意識を明確にし、スケジュールを把握すること、ロサンゼルスやアメリカについて事前に知識を得ること、現地で交流予定のパサディナ市の学生らとの関係づくりを図ることを目的に、2023年6月15日（木）～8月1日（火）の期間に事前研修を行った（表1）。

表1 事前研修スケジュール

	日程	内容
1	6月15日（木） 9:30	オリエンテーション（zoom セッション） Pasadena 短期英語留学の目的、学習スケジュール
2	6月22日（木） 9:00	学生交流（zoom セッション） 三島市に訪問予定の学生および PCC 学生との交流 自己紹介、三島市・日本文化の紹介
3	6月29日（木） 9:00	学生交流（zoom セッション） ロサンゼルス・アメリカ文化の紹介
4	7月6日（木） 9:00	訪問初日の集合場所等の確認（zoom セッション） 学習計画
5	8月1日（火） 17:00	三島市に訪問中の学生との交流（対面） （パサディナ市学生の Farewell Party）

事前研修の第1回目から4回目は Zoom セッション、最終回は対面で行った。第2回目と第3回目（図1）では、「パサディナ・三島青少年交流事業 フレンドシップ 2023」（以下、フレンドシップ 2023）で三島を訪れる予定のパサディナ市の学生8名と自己紹介をし合い、日本およびアメリカの文化や社会についてプレゼンテーションを行い、親睦を深める機会を設けた。また、最終回の8月1日は、フレンドシップ 2023 の学生らが三島を訪れており、その Farewell Party において、対面で交流することができた。

参加学生に対して、Bryan 氏から以下の課題（図2）が提示され、各自の目的を明確にし、渡航までの準備を進めた。

### 4. 研修内容

語学研修の16日間は、実践的に英語を学ぶことを目的とし、午前中に英語の授業を受講し、午後からは

図1 第2回目と第3回目のzoomセッション

## Pre-departure session 2

22-Jun Thur 9:00 (21-Jun Wed 17:00 PST)								
self-introduction 3 min for each (55 min)								
Presentation about Japan (25 min)								
Room	First			Second				
1	Kato	Chizuru	1	宮崎	Kato	Chizuru	1	宮崎
	Kobayashi	Kaho	1		Kobayashi	Kaho	1	
	Takemura	Fuka	1		Takemura	Fuka	1	
	Ankeles	Sophie	A		Fischman	Karina	B	
	Fisher	Sutton	A		Ford	Aiden	B	
2	Okamura	Reina	2	宮崎	Okamura	Reina	2	宮崎
	Tanase	Tomoe	2		Tanase	Tomoe	2	
	Nakao	Ema	2		Nakao	Ema	2	
	Fischman	Karina	B		Ankeles	Sophie	A	
	Ford	Aiden	B	BT	Fisher	Sutton	A	
3	Isobe	Nanami	3	横山	Isobe	Nanami	3	横山
	Kawarai	Otoha	3		Kawarai	Otoha	3	
	Kudo	Rin	3		Kudo	Rin	3	
	Hargrove	Olivia	C		Lopez	Lauren	D	
	Kaye-Lew	Rafael	C		Ruedaflores	Amelia	D	BT
4	Isowa	Miyuki	4	横山	Isowa	Miyuki	4	横山
	Eguchi	Hina	4		Eguchi	Hina	4	
	Miyazaki	Shiori	4		Miyazaki	Shiori	4	
	Lopez	Lauren	D		Hargrove	Olivia	C	
	Ruedaflores	Amelia	D		Kaye-Lew	Rafael	C	

## Pre-departure session 3

29-Jun Thur 8:30 JST (28-Jun Wed 16:30 PST)								
self-introduction 3 min for each (55 min)								
Presentation about Japan/USA and Pasadena (25 min)								
Room	First			Second				
1	Kobayashi	Kaho	1	宮崎	Kobayashi	Kaho	1	宮崎
	Takemura	Fuka	1		Takemura	Fuka	1	
	Hargrove	Olivia	C		Ruedaflores	Amelia	D	
	Kaye-Lew	Rafael	C	BT	Lopez	Leighton	D	
2	Okamura	Reina	2	宮崎	Okamura	Reina	2	宮崎
	Tanase	Tomoe	2		Tanase	Tomoe	2	
	Nakao	Ema	2		Nakao	Ema	2	
	Ruedaflores	Amelia	D		Hargrove	Olivia	C	
	Lopez	Leighton	D		Kaye-Lew	Rafael	C	
3	Isobe	Nanami	3	横山	Isobe	Nanami	3	横山
	Kawarai	Otoha	3		Kawarai	Otoha	3	
	Kudo	Rin	3		Kudo	Rin	3	
	Ankeles	Sophie	A		Fischman	Karina	B	
	Fisher	Sutton	A		Ford	Aiden	B	
4	Isowa	Miyuki	4	横山	Isowa	Miyuki	4	横山
	Eguchi	Hina	4		Eguchi	Hina	4	
	Miyazaki	Shiori	4		Miyazaki	Shiori	4	
	Fischman	Karina	B		Ankeles	Sophie	A	
	Ford	Aiden	B		Fisher	Sutton	A	BT

After the breakout room starts, participants can select their own room and enter.

図2 事前課題

- ① **WHY** are you coming to Pasadena for this program?
- ② **WHAT** do you want to learn while you are in Pasadena?
- ③ Do you have a **PERSONAL GOAL** you would like to accomplish while in Pasadena?
- ④ **HOW** will this experience enrich their life?

写真1 日系人高齢者施設 (NIKKEI senior gardens)



フレンドシップ 2023 やパサディナ・シティ・カレッジ (Pasadena City College: PCC) (2023 年 9 月に本学部との学部間 MOU 締結) の学生らと交流し会話を楽しんだり、パサディナ市やロサンゼルス市の名所旧跡を訪問した。全米日系人博物館 (Japanese American National Museum) を訪れた際には、Ken Tajima 氏に館内を丁寧に案内していただき、日系アメリカ人の歴

史について知り、差別について深く考えることができた。さらに、日系アメリカ人の歴史に触れる機会としてマンザナー国立歴史地区を訪問した (表 2)。また、日系人高齢者施設 (NIKKEI senior gardens) 訪問 (写真 1) の際には、Executive Director の Shin Ito 氏やスタッフの方々にご配慮いただき、入所している高齢の日系人の方々とイベントや昼食を共にし、長年のアメリカで

表2 研修スケジュール

2023 Pasadena Short-term Study Abroad Program 15, Aug (Tue) ~30, Aug (Wed) (16 days)

			Morning	Lunch	Afternoon	Evening	Stay
1	15-Aug	Tue			Departure HND		
1	15-Aug	Tue	Arrival LAX Depart for Santa Monica	Lunch on own in Santa Monica	Check-in to hotel	Welcome Dinner in Pasadena Buca di Beppo with PCC studs	SpringHill 1
2	16-Aug	Wed	Orientation English Class 1	Lunch in Pasadena	Old Pasadena / City Hall PCC Campus	Dinner Zanku Chicken Take out	SpringHill 2
3	17-Aug	Thu	English Class 2	Ride Metro Line Lunch on own in Little Tokyo	Japanese American National Museum MARUKAI shopping	at Bryan's Home Cooking Dinner Curry	SpringHill 3
4	18-Aug	Fri	English class 3	Lunch at Grand Central Market	California Science Center Space Shuttle Endeavor	Dinner and evening TBD	SpringHill 4
5	19-Aug	Sat	English Class 4	Lunch in Pasadena	15:30 Depart for Angels Stadium	Angels vs Reds Baseball Game	SpringHill 5
6	20-Aug	Sun	11:00 Shopping	Mall	16:45 to Bryan's Home	BBQ at Bryan's Home Movie Lesson	SpringHill 6
7	21-Aug	Mon	English class 5 Depart for Hollywood	Lunch on own at Farmers Market	Hollywood Japan House Griffith Observatory	Dinner and evening TBD	SpringHill 7
8	22-Aug	Tue	Early departure for Manzanar	Lunch in Lone Pine	Manzanar Historic Site	Dinner in Lone Pine	Lone Pine
9	23-Aug	Wed	California History Museum	Brunch in Lone Pine	Depart for Pasadena	Dinner and evening TBD	SpringHill 8
10	24-Aug	Thu	Depart for Disneyland	Disneyland	Disneyland	Dinner and evening at Disneyland Return to Pasadena	SpringHill 9
11	25-Aug	Fri	NIKKEI senior gardens	Lunch at NIKKEI	15:00 Hotel 16:00 Grocery Shopping	at Bryan's Cooking Dinner Spagetti English class 6 (Movie Lesson)	SpringHill 10
12	26-Aug	Sat	English class 7 Depart for Huntington	Lunch at the Huntington	Huntington Library and Gardens	Dinner Cowboy Steak Griffith Observatory	SpringHill 11
13	27-Aug	Sun	Santa Monica Pier	Santa Monica to Venice	Free	BBQ at Bryan's Home PCC students	SpringHill 12
14	28-Aug	Mon	English class 8 Depart for UCLA	UCLA Beverly Hills	UCLA Debriefing	Farewell Dinner Mexican	SpringHill 13
15	29-Aug	Tue	Depart for LAX-Tokyo				機内泊
16	30-Aug	Wed			14:15 Arrival 15:00 解散		

の生活についてお話をうかがうことができた。

5. 報告会

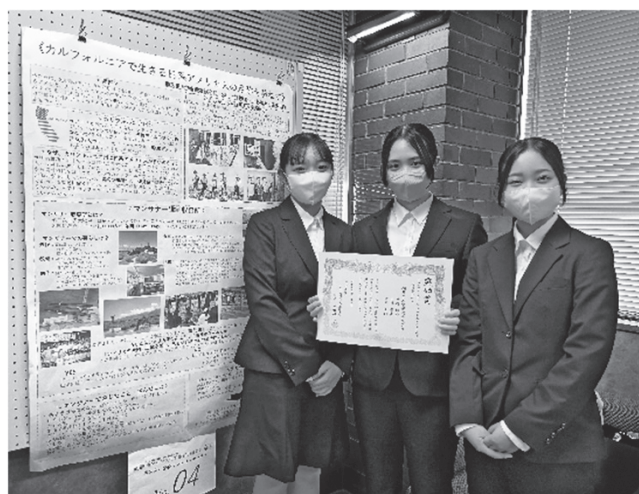
「短期英語留学 Pasadena」の体験について、2023年10月21日(土)および22日(日)の順咲祭で、発表内容ごとに担当者を決め、プレゼンテーションを行った。学生だけでなく保護者の方々にも多くご参加いただき、学びの成果を伝えることができた。また、2023年10月15日(日)の富士・箱根・伊豆国際学会では、全米日系人博物館やマンザナー国定史跡を訪れ、日系アメリカ人差別の歴史について学び、感じたことを発表「カリフォルニアで生きる日系アメリカ人の足跡を訪ねて」し、奨励賞をいただくことができた(写真2)。

III. Pasadena 短期英語留学における体験と学び

1. アメリカの社会背景 (学生: 工藤凜)

アメリカは移民の国と呼ばれるほど、様々な人種・

写真2 富士・箱根・伊豆国際学会  
(左から、小林、竹村、磯部)



民族の方が暮らしている。私たちがアメリカに行ってそれが色濃く感じられたのは食の多様性だ。日本食、中華料理、メキシコ料理(写真3)など色々な国の料理があった。ロサンゼルスでは、特にメキシコ料理店が沢山あり、メキシコ系の人種・民族の方が多い

と考えた。また、スーパーに行くとサラダ売り場では、ヴィーガン（完全菜食主義者）向けと表記のある商品も売られていた。人種・民族などの多様性に合わせて食の種類も増やしているのではないかと考えた。本当にメキシコ系の人種の方が多いのか気になったので調べてみた。

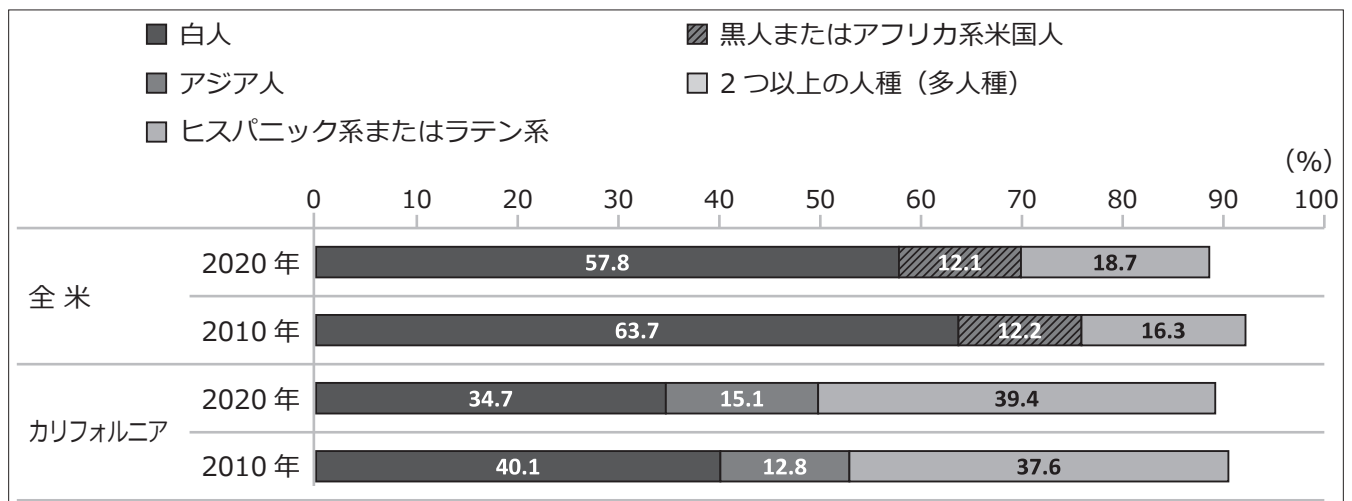
### 写真3 メキシコ料理



図3は、多様性指数が上位である州における人種・民族グループの人口構成<sup>1)</sup>を示したグラフのうち、全米と私たちが行ったカリフォルニア州の人口構成を示したものである。そもそも、カリフォルニア州は多様性指数がハワイについて2番目に高い州であると2020年の米国勢調査の結果で報告されている。カリフォルニア州のグラフをみると、2010年では白人が40.1%で最も多く、ついで37.6%のヒスパニック系・ラテン系、12.8%のアジア系となっている。2020年になると、ヒスパニック系・ラテン系が39.4%と最も多く、ついで白人、アジア系となった。ヒスパニック系・ラテン系が約40%と大半を占めるようになり、アジア系の人の割合も増えたことから、人種の多様化が進展しているといえる。実際、私たちが街を歩いていると、英語・中国語・日本語・韓国語・スペイン語など沢山の言語が聞こえてきた。

アメリカは典型的な資本主義制度をとっている。資本主義では、自由な競争ができるため経済が発展する傾向がある一方、経済的な格差が生まれてしまうという特徴がある。アメリカではその格差が大きいようで、私たちがロサンゼルスに行った時に、通りが1つ違うだけで建っている家や雰囲気が異なるのを確認できた。ダウンタウンには低所得者が集まっていた。車で移動

図3 多様性指数上位州における人種・民族グループの人口構成（文献1より抜粋）



する際に何度かダウントウンを通過したが、ホームレスの方が沢山いるのを見て驚いた。また、リトルトーキョーや大型のショッピングモールでは直接物乞いをされるということもあった。Bryan さんになぜこんなに沢山のホームレスの方がいるのか聞いたところ、「怪我や病気で仕事ができなくなり失業する。医療費が高いため病院にかかることができない。そのため、薬物を利用して痛みを和らげる。薬物中毒となり、社会復帰ができず、物乞いをして生活することになる。」ということだそう。アメリカの医療費が高いことは有名だが、まさかそれがホームレスの増加に関係しているとは考えていなかった。あのような状況をみると、社会制度が国民に及ぼす影響は大きく、どのような政策をとるのかしっかり考える必要があると感じた。

## 2. アメリカの食生活と物価

(学生：宮崎史織・磯和みゆき)

アメリカの食文化は、多様な民族が移住することでさまざまな国の食文化と先住民の食文化が融合している。また、広い国土全体に食物を行き渡らせるため、流通や加工食品が急速に発展しているそう。実際に、ピザやドーナツ、ハンバーガーなどファストフードと呼ばれる食事を手軽に取ることができた。また、メキシコ料理や中華料理、他の国の料理も食べる機会があった。日本食を提供している飲食店も多く見られた。たとえばリトルトーキョーを訪れた際、日本人が運営している定食屋があり、日系以外の多くのアメリカ人でお店はにぎわっていたのが印象的であった。(宮崎史織)

食事の際、アメリカと日本の物価が大きく違うことに驚いた。日本と比較して分かりやすいのがマクドナルドだ。実際に、チーズハンバーガーとポテトMサイズ、ドリンクMサイズを注文した際、\$12.75であった。日本円にすると1,906円相当になるが、これらを日本で買うと1,000円を超えることはない。値段

は高いが、ポテトやドリンクのサイズは大きいため、シェアするのに適当な量であった。他にも、アメリカでお寿司(写真4)を食べた。ネタは、サーモンとマグロ、ハマチと思われるものとボイルされたエビ、あとは三種類のカリフォルニアロールだった。値段は\$27.99であったが、日本の寿司チェーン店で食べれば、1,000円に満たないと思われる。この背景として、物価上昇の他に、日本とは違う環境下でお寿司そのものの鮮度を保つのも難しいために、コストがかかるのだと思われる。(磯和みゆき)

写真4 お寿司の盛り合わせ



## 3. アメリカ(カリフォルニア州)のファッション

(学生：田名瀬友恵・岡村怜南・河原井音羽)

約2週間の滞在の中で、日本とアメリカのファッションの違いを多く知ることができ、アメリカならではの良さを発見することができた。

カリフォルニアの気候は四季がほとんどなく、一年を通して日差しが強いため、サングラスの着用が必須と言われている。私達も戸外に出るときは、毎日欠かさずサングラスを着用して過ごしていた。また、乾燥

した暖かな気候であるため、街中でTシャツに短パン、靴はサンダルというカジュアルなファッションスタイルで歩く人々が多いと感じた。その一方、パーティーでのドレスアップは欠かさない。日本人がドレスを着るのは、結婚式や卒業式などの限られた時であるが、アメリカ人はホームパーティでも気軽にドレスを着用するとのこと。現地の学生から、華やかなタイトワンピースを着た写真を見せていただいた。TPOに合わせてファッションのオンオフがはっきりしていると感じた。(田名瀬友恵)

ショッピングに出かけて驚いたのは、マネキンの種類が多いと感じたことだ。日本のスーパーやデパートの洋服売り場では、一般的に細身のマネキンが使用されているが、アメリカは様々な体形のマネキンが展示されていた。また日本では、専門店以外で妊婦さんのマネキンを見かけることは少ないが、アメリカでは他のマネキンと一緒に、当たり前のように妊婦さんのマネキンも展示され、生活に溶け込んでいた。日本にも様々な体形のマネキンを取り入れてほしいと思った。(岡村怜南)

アメリカが多民族社会ということは理解していたが、マネキンの他に、もう一つそれを実感する出来事があった。それはファンデーションの豊富なカラーバリエーションだ。店舗で化粧品を見たときに日本とは比べ物にならないくらいに豊富な色を取り揃えていると感じた。実際に私が店舗で見たフェンティービューティーという化粧品会社は、アメリカの中でもいち早く、様々な肌の色に対応できるように豊富なカラーバリエーションを展開していることがわかった。カルフォルニアだけでなくアメリカ全体が多民族社会に対応していくために、様々な場面で多様性を提供していると感じられた。(河原井音羽)

#### 4. 日系アメリカ人の足跡を訪ねて

(学生：小林華歩・竹村楓香・磯部七海)

私たちはこの留学プログラムの中で全米日系人博物館を訪れ、日系アメリカ人の歴史を初めて知った。日系アメリカ人とは、日本人の祖先を持ち、アメリカの市民権を持った人々のことである。この博物館では、約100年前にアメリカへ渡った日系一世の移民に始まり、第二次世界大戦中の強制収容を経て現在に至るまでの日系アメリカ人の歴史について学んだ。

特に、収容されていた当時の写真や遺物、復元された建物(写真5)などの展示物から日系人に対する“差別”があったことを目の当たりにし、日本人として大きなショックを受け、居た堪れない気持ちになった。彼らの中には自らアメリカ兵に志願し、アメリカ軍の一員として親の祖国と共に戦う決断をした人も多くいたと聞いた。アメリカという地で日本人である私たちが今までとは違った視点で戦争を見つめ直し、新しい学びを得ることが出来た。(小林華歩)

写真5 復元された当時の建物



さらに日系アメリカ人の歴史を学ぶために、私たちは、ロサンゼルスから北へ約360キロ離れたところにあるマンザナー強制収容所(以下、マンザナー)を訪れた。マンザナーとは、アメリカに暮らしていた日系アメリカ人約11,000人が、1942年から1945年(第

二次世界大戦中)の3年間にわたり、強制収容されていた場所である。1920年頃まではリンゴなどの果樹園が広がる一帯だったため、スペイン語のりんご園を意味する“Manzanar”と呼ばれていた。現在は、マンザナー国立史跡として政府に管理、保管されている。(写真6)

写真6 マンザナー国立史跡



マンザナーに収容されていた人々の暮らしは、非常に残酷なものであった。建物が少なく影がないので夏は日あたりが強く、山が近いので冬は寒い。建物自体は、作りが簡易なため隙間からは風や砂が入り、空を見上げると家の中から星が見えた。トイレには仕切りがなく隣が見える状態だったため、人々はブランケットで仕切りのように隠して使用していたと言う。シャワー室も隣が見える一室なため、他の人が寝静まった夜中に起きてシャワーを浴びていた人もいた。一方、監視兵の建物は、頑丈な作りであり、これを見て日系アメリカ人とアメリカ人の差別を目の当たりにした。

学校はあったが、収容所の親は子供がアメリカ人に教えられることを拒んだと言われている。何かを作るときには、キャンプ内で働いたお金で欲しい物を選んで郵送されていた。しかし、届いたものは必ず検査が必要でいつも見張られているようであった。食事は、缶詰や加工品、豆類、乾物などが多く出されていた。

野菜や果物を栽培することが可能であったが、食べ物を栽培する環境も不潔で良くなかったため、それが原因で食中毒などの様々な病気に悩まされていた。私たちはこの光景をみて、プライバシーが確保されておらず、不自由な環境で、最近やウイルスによる感染症に悩まされたという差別の残酷さを理解した。(竹村楓香)

しかし、私たちには考えられない過酷な環境の中で、箸や遊び道具などを作っていたことも聞き、実物(写真7)を見学してきた。日本人らしい知恵を出し合い、様々な工夫を用いて快適に過ごせるように努力して、助け合って、暮らしていたのではないかと考えた。

写真7 手作りの箸(Bryan氏の祖父が製作)



私たちは、日系アメリカ人が差別を受け、困難や葛藤を経験しながら生き抜いてきたという歴史を知ることができた。また、収容所での過酷な生活も肌で感じることができた。現在も世界中で差別は存在している。差別を少しでも減らすため、日系アメリカ人の歴史など、実際に起きていた差別について広く伝えていくことが重要であると考えた。(磯部七海)

##### 5. 現地での英語学習(学生:中尾絵馬)

英語学習の成果という面ではこの2週間で私たち12人全員が英語という言語に対する可能性を広げることができたといえる。例えば、アメリカに渡る数ヶ



月からアメリカの学生と Zoom での交流があった。その際、私たち順天堂大学の学生は気持ちや状況を英語でうまく伝えられないことも多く、ジレンマに苛まれていた。当時はまだ、アメリカに渡ってから英語で自分の言いたいことを表現できるか不安を覚えるばかりであったのを今でも覚えている。

アメリカに渡って最初に乗り越えるべき課題となったのが到着してすぐの入国審査であった。現地で英語を話す初めての機会に学生の間では緊張感ある空気が流れていた。無事に入国審査を通過し、Bryan さんと合流し車で移動するはずだったが、同行していた教員が入国審査で足止めされ、その場で待たなくてはならなくなった。当時は焦りつつも、英語を話すのが比較的得意な学生が先導して現地の係員に状況を説明し、Bryan さんとも英語で連絡をとった。この時点で、英語で SNS を使用してメッセージを送っていたのは数名であったが、研修が終わる頃には全員が英語でテキストメッセージを送り、コミュニケーションが取れるようになった。アメリカ特有の他人にも気軽に話しかける文化や現地学生との対面の交流を通して学生間で助け合いながら英語力を磨いていった。特に Bryan さんと毎朝行われるディスカッションではアメリカの現状を知るとともに英語を日常的に使う術を学ぶことができた。そのため、初めは Bryan さんの言葉をすべて聞き取れなかった学生も徐々に耳が慣れ、最後には殆ど遜色なく聞き取れるようになっていた。耳の慣れは聞くだけではなく、徐々に喋る方にも影響し、帰国する頃には話す際に頭の中で日本語と英語のチャンネルを切り替えるほど英語脳へと変わっていた。

渡航当初は英語を話すことへの不安感が強かったが毎日英語に触れ続けることで徐々に英語に慣れていき、最後はアメリカを離れたくなくなるほど英語という言葉への抵抗がなくなったといえる。これは紛れもなく、この研修の意義であり成果であったと思う。

## 6. まとめ（学生：江口陽南・加藤千鶴）

私たちは約 2 週間のパサディナでの滞在で日本とアメリカの生活様式・コミュニケーション・食事・物価の違いについて知ることができ、多文化に触れ、多様性について学ぶことができたと考える。全米日系人博物館やマンザナーを訪れて、第 2 次世界大戦中の日系アメリカ人の歴史について学んだ。日本の学校ではそれらの歴史について学ぶ機会がなかったため、日本にいなかった方達がどのような扱いを受けていたのかを知り様々な感情が湧いた。この機会に日系アメリカ人のことだけではなく世界中で起きている人種差別についても考えた。差別をなくすために私たちはどのような行動をとるべきか考えていく必要がある。今回の Pasadena 短期英語留学では、パサディナ市姉妹都市委員会三島市分科委員会役員の Bryan Takeda 氏に様々な面でサポートして頂いた。ここに感謝の意を表する。

## IV. おわりに

今年度初めてアメリカ合衆国での語学研修を実施した。学生 12 名は 16 日間の間、生活の場で英語を使い、フレンドシップ 2023 や PCC の学生らとも英語で交流することができた。また、様々な場所で多くの方々に出会い、多文化や多様性について感じ考える機会となった。本プログラムの訪問先や日程、チケットの手配などはすべて Bryan 氏に調整していただいた。5 日目に Angels Stadium で大谷翔平選手が所属するエンジェルス野球観戦ができたことも、アメリカ文化を身近に体験するよい機会となった。Bryan 氏は、学生らを毎日様々な場所に連れて行ってくださり、車で移動中も常に学生らに英語で話しかけ、沢山のことを説明してくださった。滞在中は Bryan 氏のご家族にも大変お世話になった。また、全米日系人博物館の Ken Tajima 氏、NIKKEI の Shin Ito 氏やスタッフの方々にも、心より感謝を申し上げたい。初めての Pasadena 短期英語留学では、英語学習に加えて教育的文化的学習体

験を実現でき成果があったと考えるが、今後は語学研修の客観的評価も含めたプログラムの検討が望まれる。

## VI. 引用文献

- 1) 米山洋 (2021.10.14) : 独立行政法人日本貿易振興機構 地域・分析レポート, 米国勢調査の最新結果から人口動態変化を読み解く (2023.12.15 閲覧)  
<<https://www.jetro.go.jp/biz/areareports/2021/e7aa675053264220.html>>